



夏休みこそ 豊かな体験活動の推進を！

小学生の頃に体験活動（自然体験，社会体験，文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後，高校生の頃に自尊心（自分に対して肯定的、自分に満足しているなど）や外向性（自分のことを活発だと思う）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向きなど）が高くなる傾向がある。



文部科学省「令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」（令和3年9月8日）

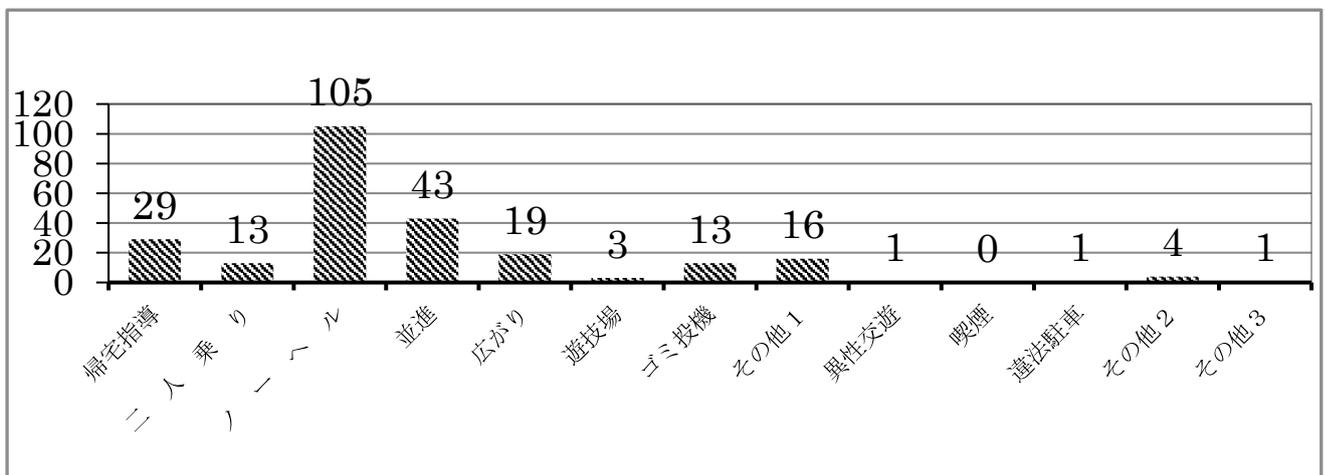
この調査は平成13年に生まれた2万人以上の子どもとその保護者を対象に、18年間追跡調査し分析したものです。これほどの規模で追跡調査し、体験活動とその効果の関連性を明らかにする分析は文部科学省として初めての取組です。

信州大学の平野教授の調査によると、「夜空に輝く星をゆっくり見た」「太陽が昇るところや沈むところを見た」「チョウやトンボ，バッタなどの昆虫を捕まえた」などの自然体験のある子どもが年々減少しています。平成17年の調査では日の出や日の入りを見たことがない子どもが43%、昆虫を捕まえたことがない子どもが35%もいるという結果でした。

最近の子どもたちは家の中に閉じこもり、ゲームやテレビなどの遊びが中心となりがちです。長い夏休みこそ、子どもたちを外に連れて行き、親子キャンプや釣り、山登り、アスレチック遊び、昆虫採集、星空観察などの自然体験をはじめ、さまざまな体験活動を親子で楽しみたいものです。そんな家族写真は、思い出にもなり、将来の宝物になると思います。

令和3年度の補導実績から

（単位：件数）



※その他(1)危険な遊び場、マナー違反等 その他(2)道路異常等 その他(3)救護活動

上の表は、13人の補導員と当センター職員が巡回補導で声かけ指導をした昨年度の実績で、総合計は248件です。ご覧のように、自転車に関する危険運転（ノーヘルメット、並進、広がり、右側通行、無灯火、二人乗り）が多いです。

補導員からの報告書のコメント欄には「自転車にノーヘルで二人乗りをしている女子生徒がいたので注意した。」「男子生徒が自転車で見通しの悪い交差点で、一旦停止、安全確認を怠り直進した。危険性を感じたので注意した。」「19時頃、男子生徒が公園で遊んでいたのので帰宅指導をした。」「16時過ぎに川の中州で児童3人が遊んでいた。子どもたちの近くに行き、親と一緒に遊ぶように注意した。」などがありました。

家庭や学校でも引き続き、子どもたちにケガや事故等がないよう指導をお願いいたします。